

SNSを活用した保育者養成校ピアノ演習科目での 取り組みについて

河野 久寿・内田 雄

(2023年3月6日受理)

Efforts in a piano practice course at a nursery teacher training school using Social media

KAWANO Hisatoshi・UCHIDA Yu

要旨：本研究は、保育者養成校ピアノ演習科目におけるSNSを活用した取り組みについて、その利点と問題点を学生のアンケートの結果を集計し考察した。SNS（LINE）での動画受付があった方が良いかとの質問に関しては90%以上の学生があった方が良いと回答し、各種FBに関しても90%以上が役に立ったと回答、教員からのFBに関してもほとんどの学生が理解できたと回答した。本科目におけるSNS（LINE）の活用に関して、学生にとってメリットがあることが分かった。

Key words：保育者養成校（Nursery teacher training school） ピアノ教育（Piano education）
アンケート調査（Questionnaire survey） SNS（Social media）

1. はじめに

COVID-19の世界的な蔓延は教育機関における授業形態にも影響を及ぼした。仁愛女子短期大学(以下、本学)は立地する場所が地方ということもあり、初期の段階では感染者数がそれ程多くなかったことや、学内において特に2020年度は、全学的にオンライン授業への移行を余儀なくされる中でもピアノ演習科目における対面レッスンの重要性に理解があったこと、授業における教室やレッスン室・練習室の人数制限を行う、フェイスシールドを使用するなどの対策により、2020年度から2022年度現在まで辛うじて対面でのレッスンを継続することができた。しかし時には緊急事態宣言中の登学禁止期間もあり、対面での授業を行えない中で、特にピアノ初心者の方の技術習得に繋がるオンライン上での授業形態を新たに模索する必要がある。

本学ではオンライン授業を行うeラーニングプラットフォームとしてMoodleを用いている。本学幼児教育学科（以下、本学科）ピアノ演習科目「音楽（ピアノ基礎演習）」においてもMoodle上で、

授業の概要や授業の到達目標と成績評価の説明、ピアノ初心者向けの楽譜の読み方に関する動画（YouTubeリンク）、仁愛附属幼稚園実習曲（弾き歌い）のPDFスコア、バイエルピアノ教則練習用説明動画（YouTubeリンク）、弾き歌い曲の参考動画（YouTubeリンク）、または年4回の実技試験を撮影した動画（YouTubeリンク）など、学生が自身での練習に活用できる様に様々なコンテンツを用意する形でMoodleを活用している。

ピアノ演習科目においては個人レッスンでの教員と学生の対話が重要な要素である。オンラインにおいても学生とのやり取りをリアルタイムで行えることや、教員が学生の演奏を確認できるように演奏動画提出が学生にとって簡易に行えることが押さえるべき項目であろう。Moodleを介しての動画のやり取りは容量制限の問題があり、その他クラウドサービスの利用も学生にとっての手続きが煩雑になる。そこで、音楽（ピアノ基礎演習）では外部ツールであるSNSを活用するに至った。

SNSと言っても様々な種類や特徴がある。その選択の中でまず重要なのは、ツールの使い勝手と教員と学生のやり取りのしやすさであろう。日本のSNSにて最も利用率が高いのがLINEである¹⁾。本学幼児教育学科（以下、本学科）においても2021年授業開始時のガイダンスにて学生への確認を行ったが、全員がLINEを使用しており、利用準備や説明を行わずとも、教員への演奏動画提出や、テレビ電話を使用した指導も行えるという利点がある。

以上のことから、本学科音楽（ピアノ基礎演習）では、登学禁止時にはSNS（LINE）を活用した演奏動画提出による演奏チェック・その後のテレビ電話や文章によるコメント・Zoomを用いた指導の授業形態となった。また、SNS（LINE）を活用した演奏動画提出による演奏チェックにおいては、通常時の対面での授業期間中や夏季冬季の休み期間中でも、学生の進捗を促すための一対策として常時受け付けることとした。このことは学生としては、一週間毎に練習した曲を纏めてレッスンを受けていたものがその日を待つことなく出来た段階で次の曲へと進める、レッスンでのチェックを受ける際の教員の前で演奏するプレッシャーから解放されてリラックスした中で演奏できる、その中で一番良く演奏でき

たものを提出できるなどのメリットが挙げられる。

本研究は、音楽（ピアノ基礎演習）を終えた学生を対象としたアンケートを実施し、ピアノ経験歴、日頃の練習時間、SNSを活用した演奏動画の提出量、動画提出に関する意見などを調査し、保育者養成校におけるピアノ演奏技術習得を目指した学生の姿を明らかにすることを目的とする。

2. 方 法

(1) 調査対象者

2021年度本学にて開講された音楽（ピアノ基礎演習）（1回生対象）の受講者91名（再履修者除く）のうち、学内ガイダンスを通して81名に対しSNSを利用したピアノ動画提出に関するアンケート調査を配布した。調査は2022年4月に実施され、調査対象者全員が授業の受講を完了した状態であった。本調査の目的、実施方法等は書面にて説明され、参加に同意を得られた81名全員から回答を得た。なお、本調査は無記名式で実施された。

(2) 調査内容

調査対象者には、調査対象者の属性、授業期間内における週当たり練習日数、SNSを通じたピアノ演奏

表1 音楽（ピアノ基礎演習）におけるグレード

グレード1	初心者	全訳バイエルピアノ教則本12番から抜粋して55曲 仁愛幼稚園実習曲など5曲
グレード2	初級	全訳バイエルピアノ教則本45番から抜粋して40曲 応用曲2曲・仁愛幼稚園実習曲など5曲
グレード3	中級	全訳バイエルピアノ教則本103番～105番・ブルグミュラー25の練習曲またはツェルニー30番練習曲などから選択曲10曲 仁愛幼稚園実習曲など5曲
グレード4	中級	全訳バイエルピアノ教則本103番～105番・ソナチネアルバムなどから選択曲8曲 仁愛幼稚園実習曲など5曲
グレード5	上級	全訳バイエルピアノ教則本103番～105番・ピアノソナタなど教員が認める選択曲6曲 仁愛幼稚園実習曲など5曲

動画提出数、SNSを通じた動画提出の有無に対する意見（4件法：SNSを通じた動画提出が、4：とてもあった方がよい～1：全くない方がよい）、SNSを通じた動画提出に対するフィードバック（以下、FB）に関する意見、LINEによる動画提出で良かった点・悪かった点（自由記述）を調査する調査票を配布した。

調査対象者の属性としては、単位修得の可否（単位取得済、不合格）、グレード（1～5）、ピアノ経験歴（年）を調査した。

SNSを通じた動画提出に対するFBに関する意見では、文章、動画、Zoomや電話によるFBがどの程度役立ったか（4件法：4とても役立った～1：まったく役立たなかった）、どの程度理解できたか（4件法：4とてもできた～1全くできなかった）、また、どんな内容（音間違い、指使い、テンポ、姿勢、音量）が役に立ったかを調査した。

（3）アンケート結果の集計方法

被験者の属性毎に練習日数および動画提出数の結果を集計した。具体的には、ピアノ経験の有無（経験者、未経験者）、グレード（1, 2と3, 4：調査年度ではグレード5は0名）、単位取得状況（単位修得、不合格）により分けられた群毎に練習日数および動画提出数の平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出した。なお、グレード3, 4において未経験者はいなかった。また、グレード3, 4における不合格者は

1名のみであり、解析から除外した。

動画提出があった調査対象者に対して、動画に対するFBの効果を集計した。教員からのFBは「Zoomや電話」「動画」「文章」に分けられる。各種FBが「どの程度役に立ったか」、「理解できたか」に関して回答結果をFB方法毎に集計した。また、FB毎に「音間違い」「指使い」「テンポ」「姿勢」「音量」に対する指摘がどの程度参考になったか、ピアノ経験別に集計した。

3. 結 果

表1および表2は調査対象者の属性別に見た練習日数および動画提出数の基礎統計量を示している。単位取得者の週当たり練習日数の平均が $2.47 \pm 1.50 \sim 3.00 \pm 1.34$ 日であったのに対し、不合格者は $1.89 \pm 0.98 \sim 2.00 \pm 0.63$ 日であった。グレード1, 2における未経験者に限定してみると単位取得者 2.54 ± 1.39 日に対し、不合格者は 1.89 ± 0.98 であった。また、SNSによる平均動画提出数が最も多かったのは単位取得者のグレード1, 2・未経験者群で 10.15 ± 7.53 曲であった。次いで多かったのは単位取得者のグレード1, 2・経験者群（ 5.74 ± 4.62 曲）、不合格者のグレード1, 2・経験者群（ 3.20 ± 2.93 曲）、単位取得者のグレード3, 4・経験者群（ 2.73 ± 2.80 曲）であり、最も少なかったのは、不合格者のグレード1, 2・未経験者群であった（ 2.39 ± 2.08 曲）。

表3は動画提出があった方がよいか否かに関して

表2 被験者の属性別にみた週当たり練習日数の基礎統計量

			練習日数			
			平均	標準偏差	最大	最小
単位取得者	経験者	グレード3,4 (n=15)	2.47	1.50	7.00	1.00
		グレード1,2 (n=19)	3.00	1.34	7.00	1.00
	未経験者	グレード1,2 (n=13)	2.54	1.39	6.00	0.00
不合格者	経験者	グレード1,2 (n=5)	2.00	0.63	3.00	1.00
	未経験者	グレード1,2 (n=28)	1.89	0.98	4.00	0.00

表3 被験者の属性別にみた動画提出数の基礎統計量

			動画提出数			
			平均	標準偏差	最大	最小
単位取得者	経験者	グレード3,4 (n=15)	2.73	2.80	8.00	0.00
		グレード1,2 (n=19)	5.74	4.62	15.00	0.00
	未経験者	グレード1,2 (n=13)	10.15	7.63	27.00	0.00
不合格者	経験者	グレード1,2 (n=5)	3.20	2.93	7.00	0.00
	未経験者	グレード1,2 (n=28)	2.39	2.08	8.00	0.00

表4 被験者の属性別にみたLINE動画提出に関する意見

			動画受付はあった方が良いか？					
			とても	やや	あまり	全く		
単位取得者	経験者	グレード3,4 (n=15)	8 53.3%	4 26.7%	3 20.0%	0 0.0%		
		グレード1,2 (n=19)	8 42.1%	9 47.4%	2 10.5%	0 0.0%		
	未経験者	グレード1,2 (n=13)	9 69.2%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%		
不合格者	経験者	グレード1,2 (n=5)	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%		
	未経験者	グレード1,2 (n=28)	16 57.1%	9 32.1%	3 10.7%	0 0.0%		

同様の区分で調査したものとなる。SNSによる動画受付はどの群においても80%以上が肯定的な意見であった。

以下の表4および5は解析対象者80名の内、動画提出が1つ以上あった54名を対象として教員からの各種FBがどの程度役立ったのか？理解できたのか？を集計した結果である。各FBがあったと回答した数はZoomや電話で11人（20.4%）、動画で32人（59.3%）、文章で53人（98.1%）であった。どのFB方法も90%以上が役立った、理解できたと回答した。

表6は各FBにおいて役に立った指摘について、

経験者・未経験者別に集計した結果である。音間違いにおいては、経験者未経験者問わず、すべてのFB方法で40%を超える学生が参考になったと回答していた。指使い（20.0%～48.1%）やテンポ（29.0%～83.3%）に関する指摘も参考になったと回答している割合が比較的高かった。姿勢については、どのFBも回答者は少なく、音量については、Zoomや電話では経験者3人（50%）であるもののその他では少数であった。表8はSNSによる動画提出で良かった点・悪かった点を自由記述により学生へ回答を求めた結果の主な回答をまとめたものである。

表5 教員からの動画提出に対するFBはどの程度役立ったか？

		よく	やや	あまり	全く
zoomや電話	(n= 11)	7 (63.6%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)
動画	(n= 32)	11 (34.4%)	19 (59.4%)	2 (6.3%)	0 (0.0%)
文章	(n= 53)	25 (47.2%)	26 (49.1%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)

表6 教員からの動画提出に対するFBを理解できたか？

		よく	やや	あまり	全く
zoomや電話	(n= 11)	7 (63.6%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)
動画	(n= 32)	13 (40.6%)	18 (56.3%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)
文章	(n= 53)	29 (54.7%)	21 (39.6%)	2 (3.8%)	1 (1.9%)

表7 各種FBのどんな指摘が役に立ったか？

		n数	音間違い	指使い	テンポ	姿勢	音量
zoomや電話でのアドバイス	未経験者	(n= 5)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	経験者	(n= 6)	6 (100.0%)	2 (33.3%)	5 (83.3%)	0 (0.0%)	3 (50.0%)
動画でのアドバイス	未経験者	(n= 22)	9 (40.9%)	8 (36.4%)	10 (45.5%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)
	経験者	(n= 10)	7 (70.0%)	2 (20.0%)	4 (40.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)
文章でのアドバイス	未経験者	(n= 27)	13 (48.1%)	13 (48.1%)	15 (55.6%)	2 (7.4%)	3 (11.1%)
	経験者	(n= 26)	11 (42.3%)	8 (30.8%)	17 (65.4%)	1 (3.8%)	5 (19.2%)

表8 SNSによる動画提出で良かった点・悪かった点の抜粋

良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のタイミングで送れる ・何度も弾き直して一番よく弾けたものを提出できる ・休み期間でもピアノを進める事ができた ・焦らず落ち着いて弾ける ・提出する機会がある事で自主的に進める事ができた ・先生に見られているという緊張感がない ・動画提出に対してのアドバイスの文章が分かりやすかった
悪かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・撮るのが大変 ・お手本やピアノの音が無いため分かりづらい ・テンポなどは文章だけでは分かりづらいところもある ・映す角度や位置などを調節して家族に静かにしてもらうよう協力して貰わなければならなかったので大変だった ・家の都合で難しい時がある ・スマホの容量が無く何回も動画を撮る事ができなかった

4. 考 察

冒頭にも述べた通り、本学科ピアノ演習科目において学生のピアノ演奏技術獲得のために通常対面授業に加え、Moodleでのオンラインコンテンツの提供や、SNS（LINE）を利用した演奏チェックやFBを活用したが、結果として2021年度の音楽（ピアノ基礎演習）不合格者数は多かった。理由としては昨今の学生の入学時におけるピアノ習熟度の低下に加え²⁾、COVID-19の世界的な蔓延による影響から、本学入学前より対面授業を含めた様々な活動の制限を受けていることも原因の一つであろう。単位取得者と比較し不合格者は週当たりの練習日数が少なく、同じグレードでの比較でも同様な結果であった。練習日数・練習量の少なさは進度の遅延につながり、不合格となる要因となったと考えられる。また、LINEでの演奏動画提出数においても、単位取得者と比較し不合格者は少なかった。特にピアノ未経験者同士での単位取得者と不合格者では大きな曲数の差が出た。

LINEでの動画受付があった方が良かったかの質問に関しては90%以上の学生があった方が良かったと回答し各種FBに関しても90%以上が役に立ったと回答している。教員からのFBに関してもほとんどの学生が理解できたと回答していることから、本科目におけるLINEの活用に関してメリットを感じていることが窺える。各種FBにおける指摘に関しては、

音間違い・テンポ・指使いが高い割合を示していたが、特筆すべきは動画でのチェックでも指使いの指摘も十分可能であるということであろう。

SNSによる動画提出で良かった点・悪かった点の自由記述から今回のSNS活用のメリットとして、学生自身の空いた時間で練習したものの中で納得したものを提出できることや、レッスンでの教員から見られる緊張感なくリラックスして自宅などにて録画ができることが挙げられる。一方デメリットとしては、撮影の大変さ、撮り方や撮影環境の問題、スマホの容量やパケットの問題も挙げられよう。

学生にとってのメリットあるSNS活用の取り組みであるが、教員側からとしてもメリット・デメリットを挙げる。メリットとしては、学生の自主性を促す一つの手段となり得ることがある。ピアノに関して特に初心者には多くの練習量・練習時間が求められる。その中で、忍耐強く継続的な取り組みが必要となるが、山を登って行くが如く何合目などの目標は必要であろう。そのような意味で、授業の1週間を待たずとも合格したら次の曲へと1曲1曲集中して取り組める体制を用意できることは有益である。デメリットとしては、教員の負担の増加がある。学生にとっていつでも提出できることは、受ける教員としてそれなりの時間と労力を取られることとなる。2022年度の動画チェック数は400回を超えている。動画を送ってくる時間帯も深夜・早朝に関わらず

送ってくる学生もあり、各学生のアルバイトなど置かれた環境を考慮して自由に送ってくることを伝えてはいるものの、受け付ける時間の制限や設定などの対策は必要であろう。もう一つのデメリットとしては、動画提出における不正行為である。動画撮影の際の注意点として、本人確認のため顔・弾いている鍵盤・指を映したものを送るように伝えているものの、送られたものとしては、音だけで送ってくる、鍵盤を弾く手だけで送ってくる、顔を写していない、顔・弾いている鍵盤・指を映しているが音が合っていないものが実際にあった。本学科学生全体としては真面目な学生が殆どである中で、早く楽して終わらせようとする学生がいることも事実である。

COVID-19の蔓延という憂うべき行動の制限がある中で、学生に望むことは自宅においてでき得ることを誠実に取り組むこと、音楽において将来教育者となる人間としてピアノが奏でる音やそれを聴く感覚に対して誠実に向き合うことを求めたいと考える。

保育・教育の現場において、保育者・教育者が日常の音楽活動や幼児への音楽指導を行う際には、ピアノ実技能力やその過程で学んだ音楽的知識が大きく影響する。そのためピアノ実技能力は保育者・教育者にとって必要不可欠のものである。

将来保育者・教育者や関わる子ども達への影響を鑑み、今後も学生のピアノ実技能力獲得へ向け精進して参る所存である。

引用・参考文献

- 1) 松田美佐(2021)「若年層におけるスマートフォン・SNS利用」 国立情報学研究所 紀要社会学・社会情報学(31),107-117
- 2) 河野久寿・内田雄(2020)「保育者養成校における学生のピアノ習熟度とGPAの関係」 仁愛女子短期大学研究紀要(52),45-49
- 3) 伊藤憲孝(2022)「保育者・教育者を目指す学生のピアノ実技能力育成における動画教材の有用性-オンライン授業・対面授業における活用の試み-」 福祉健康科学研究(17),25-34
- 4) 川内奈央子(2021)「ピアノ個人指導における対面レッスン,オンラインレッスン それぞれの利点,これからの活用について-コロナ禍におけるピアノ個人実技指導の実態-」 大和大学研究紀要(7),37-54